

総 合 分 野

授業科目	看護基礎セミナー	科目責任者	浜端 賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講セメスター	1年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	大学で看護学を学ぶ基本を理解する。						
	到達目標	1. 多様な年代の様々な立場にある人々の生き方について理解できる。 2. 大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを身につける。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	大学での学び方①	[講義] オリエンテーション 大学生活をどのように過ごすのか、高校と大学での学びの違い、大学で何を学ぶのか。					浜端・横山(由)	
2	大学での学び方②	[演習] セミナー担当教員と学生同士のディスカッション 自己紹介ならびにグループメンバーの状況を理解し、大学での学び方や学生生活で大切なことを共有する。					セミナー 担当教員	
3	図書館の活用方法を学ぶ	[講義] 大学図書館の機能と資料検索方法 オリエンテーションを受け、蔵書の分類方法と看護関連書籍の位置を確認する。また、情報メディアに触れ、資料検索方法のスキルを学習する。					図書館 (担当者)	
4	レポートの書き方を学ぶ	[講義] 適切なレポートの書き方 レポート作成の基本と留意点、レポートの例示を踏まえた適切なレポート作成方法を学習する。					川上	
5・6	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る①	[演習] 大学の教職員とのコミュニケーション さまざまな知識や経験を有する教職員との交流を通して、人々の生き方について知る。					セミナー 担当教員	
7～12	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る②	[演習] テーマ設定とグループディスカッション グループで話し合う内容を焦点化して、グループディスカッションに関連した書籍やDVD等を検討する。選択した書籍やDVDを用いて、プレゼンテーションとグループディスカッションの計画を立案し実施する。プレゼンテーションでは資料を作成し、紹介したい内容について自己の考えを発表する。プレゼンテーション後は質疑応答と討論を行い、他者の考え方や学びを共有する。					セミナー 担当教員	
13	自分の意見や考え方をまとめる	[演習] グループでの学びと自己の考え方 グループの学びを通して感じ考えたことを、自分の意見や考え方にまとめる。					セミナー 担当教員	
14	レポートの書き方を学ぶ②	[演習] 作成したレポートの発表と意見交換 作成したレポートの発表を行い、学んだ成果や大切な箇所について意見交換を行う。意見交換で得られた知見や助言を踏まえ、レポート内容を再点検する。					セミナー 担当教員	
15	評価						浜端	
教科書	なし			参考書等	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」 前原澄子、金芳堂、2017年			
履修条件	なし			評価方法	・グループディスカッション(50%) ・レポート(50%)			
備考	大学でさまざまな知識や経験を持つ人たちと関わり、スタディ・スキルを通じて看護学を学ぶ基本を理解する。また、書籍やDVD等を活用してGD(グループディスカッション)を行い、自己と他者の考え方や価値観等を学ぶ。グループごとで提示された教材の予習をしてセミナーに臨み、スタディ・スキルで学んだ内容については復習を行う。							

授業科目	文献講読セミナー	科目責任者	佐藤 幹代	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	30	受講semester	2年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の充実にかかわる研究成果の収集とその応用のための基本的な方法を修得する。						
	到達目標	1. 看護における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実に向けて研究成果を確認し、看護実践方法の改善課題を整理する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容並びに方法					担当教員	
1	看護と文献	[講義] コースオリエンテーション 文献の定義と役割、情報の発生について学習する。					佐藤	
2	看護に役立つ参考資料と情報源	[講義] 看護に役立つ参考資料と単行書、学術雑誌、学術論文の構成について学習する。					佐藤	
3	一次資料・二次資料と参考文献	[講義] 資料の種類と構造、ならびに参考文献(辞典、事典、法令・通達、社会状態や行政の取りくみ、統計データ、検査方法データ、薬品)等の調べ方について学習する。					佐藤	
4	興味・関心のあるテーマ	[演習] 各学生が興味・関心のあるテーマを持ち寄り検討する。					担当教員	
5	看護の文献の講読方法	[講義] 看護に関する和洋文献の講読方法について学習する。					八木	
6	収集した文献整理と発表方法	[講義] 収集した文献の整理方法とレポートの記述と口頭発表の方法について学習する。					古島	
7	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅰ	[演習] 医中誌 Web、J-STAGE、OPAC など主に和文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に学習する。					担当教員 図書館司書	
8	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅱ	[演習] Pub Med、MEDLINE、CINAHL など主に洋文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に学習する。					担当教員 図書館司書	
9	テーマについて検索	[演習] 自分が調べたいテーマについて検索する。					担当教員	
10～14	調べたテーマに関するグループ討議	[演習] 各自が関心あるテーマに関して調べた文献をもとに、文献検索方法や解釈について、発表資料を作成し討議する。討議を踏まえて、洗練したレポートを作成する。					担当教員	
15	評価						佐藤	
教科書	「看護研究のための文献検索ガイド(第4版)」 山崎茂明・六本木淑恵、日本看護協会出版会、 2010年			参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する。 グループ別学習では、各学生の興味や関心にそって検索した参考書を使用する。			
履修条件	なし			方 法 評 価	1. レポート(50%) 2. プレゼンテーション(30%) 3. 参加態度(20%)			
備考	研究セミナー、看護総合セミナー、総合実習などを学習するための基盤となる科目である。指定教科書を含め関連する書籍や検索した文献を精読して授業や討議に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献を読み解き、授業内容を復習する。							

授業科目	研究セミナー	科目責任者	野々山 未希子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	15	受講セメスター	3年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	看護実践を積み重ねる過程で専門性を深めていくための基本的な方法を理解する。						
	到達目標	1. 看護研究の目的と意義を理解する。 2. 看護研究方法の基本を理解する。 3. 看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	研究とは	[講義] オリエンテーション 研究とは何か、研究の目的、研究の問い、研究プロセスと研究方法選択の重要性について学習する。					野々山	
2	看護研究と研究計画	[講義] 看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、看護実践に基づく研究課題、研究計画書の内容について学習する。					野々山	
3・4	研究の問いにつながる キーワードの検討	[演習] 自らの看護実践に基づく研究動機およびリサーチクエスチョンを元にグループ討議を行い、研究課題を明確化するために必要な文献検索を行うためのキーワードについて学習する。					野々山・ 角川	
5	研究倫理	[講義] 研究倫理、研究における倫理的配慮について学習する。					野々山	
6	研究課題の検討	[演習] 検索した文献を元に、研究課題を明確にするために必要な情報の不足についてグループ討議を通して学習する。					野々山・ 角川	
7・8	文献検討による看護実践課題の整理	[演習] 文献検討に基づき自らの看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いについてグループ討議を行い、研究背景を整理する。					野々山・ 角川・ 母性看護学助教	
教科書	「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究」メディカ出版、2018年			参考書等	適宜紹介する			
履修条件	なし			評価方法	1. 最終レポート (70%) 2. 講義において提出を求める課題 (30%)			
備考	「看護基礎セミナー」や「文献講読セミナー」等で習得した、文献や情報を収集・検討する力を活かし、看護実践の改善・充実に向け創造的に探求するための能力を養う。「総合セミナー」の基盤となる科目である。受講前に文献検索方法について復習しておくこと、および教科書の該当箇所の予習・復習をしながら学習することが求められる。学生には、各自の研究課題を追求するために、考えを文章化する能力および、自分で学習する姿勢が求められる。							

授業科目	看護総合セミナー	科目責任者	塚本 友栄	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	120	受講semester	4年次通年	
学習目的と到達目標	目的	自己の看護実践を客観的事実として把握でき、社会の変革の方向を理解した看護学の発展を追求するための姿勢を習得する。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践における課題や疑問の解決に向けて文献・情報を収集する。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実に向けて研究成果を応用する。 3. 自己の看護実施過程を客観的事実として把握する。 4. 看護実践方法の改善課題を整理し、解決するための方法を考える。 						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1 2～15 (前学期) 16～60 (後学期)	<p>オリエンテーション</p> <p>自己の看護実践課題に関連する文献等を用いて情報収集する。</p> <p>総合実習で配置された場において可能な目標及び方法を明確にする。</p> <p>総合実習で配置された場において展開した実践内容を踏まえ、課題の解決、必要な他職種や他機関との協働、チームアプローチについて明確化し、看護実践を発展させるための方策を検討する。</p>	<p>[演習]</p> <p>1. 演習方法 学生は7つの看護系学科目別にグループに分かれて学習する。</p> <p>2. 演習時期・演習内容 【前学期】(30時間)</p> <p>① 学生はこれまでの実習を振り返り、自己の看護実践課題を明確化する。</p> <p>② 課題に関連する文献等を広く閲覧し、課題を取り巻く医療や看護を取り巻く社会情勢の変化やその方向性を踏まえながら、得られた情報を整理し、自己の看護実践課題の位置づけを明確化する。</p> <p>③ 配置された実習場所で可能な実習計画を作成する。</p> <p>【後学期】(90時間)</p> <p>④ 総合実習における実習内容を踏まえ、対象者にとって必要とされる看護実践を発展させるための方策について、文献を用いて考察を深め、研究レポートを完成させる。</p> <p>⑤ 研究レポートにまとめた内容に基づき、看護系学科目別の発表会において発表する。</p>					全教員	
教科書	特に指定しない			参考書	特に指定しない			
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・単位を取得していることが必要な科目 「文献講読セミナー」「研究セミナー」 「小児期看護実習」「周産期看護実習」 「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」 「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」 「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「総合実習」 			評価方法	[看護総合セミナー 評価票] (100%)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護総合セミナー」は、「総合実習」と連動しながら学習を展開する。本科目の予習として「研究セミナー」で明らかにした『看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問い』を踏まえながら、「総合実習」で配置された場において可能な看護実践について、資料や文献等を活用しながら検討することが求められる。 ・「看護総合セミナー」で提出するレポートは、看護学部最終学年で提出する卒論にあたるものである。レポート作成にあたっては、自ら行動計画を立案して取り組む姿勢が求められる。 							

授業科目	看護トピックス	科目責任者	本田 芳香	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	30	受講 Semester	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ。						
	到達目標	1. 現在の看護実践における課題を理解できる。 2. 将来の看護実践のあり方を考えることができる。 3. 卒業を前に、自己の看護職としての心構えと将来展望をもつことができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～6	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解①	[講義・演習] 高度医療の場における看護、へき地看護、その他医療・看護の現場で注目すべきトピックスや教員の専門領域にかかわるテーマから、現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・7テーマ程度を設定し、学生はいずれか一つのテーマを選択し、学習する。					全教員	
7・8	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解②	[演習] ・学内や学外で行われる学会、講演会、公開講座等に参加し、医療・看護の現場で注目すべきトピックスや現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・学生は自己の関心に応じて主体的に参加し、学習する。					全教員	
9～15	4年間の学習の振り返りと将来展望を踏まえた自己の学習課題の明確化	[講義・演習] これまでの学習を振り返り、また将来展望を踏まえて、自己の課題を明確にし、課題克服のために学習する。					全教員	
教科書	指定しない			参考書等	指定しない			
履修条件	なし			評価方法	1) 1～6回 テーマ毎に、出席態度、演習における学習姿勢、授業に提出を求める記録物等で評価する。(60%) 2) 7・8回 レポートで評価する。(20%) 3) 9～15回 学習態度で評価する。(20%)			
備考	これまでの学習を踏まえて、高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ科目である。各回に対して出された課題について、予習・復習して学習を進めること。 1～6回の講義・演習については、看護学科目によっては前学期に実施する場合がある。各看護学科目の授業予定および7・8回で紹介する学会、講演会、公開講座等については、4月のオリエンテーションで説明する。最高学年に相応しい学習態度で臨むこと。							

授業科目	がん看護学	科目責任者	小原 泉	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	15	受講semester	2・4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習する。						
	到達目標	1. がんの特徴・がん治療の特徴と看護を理解する。 2. がん治療を受ける対象に必要な看護を理解する。 3. がん体験者・がんと共に生きる対象の生活と必要な看護を理解する。 4. がんと共に生きる対象とその家族に必要な緩和ケアを理解する。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	がんおよびがん治療の特徴と看護	[講義] がんの診断やがん治療が対象に与える影響と、緩和ケアの意義および必要な看護について学習する					小原	
2	がん治療を受ける対象に必要な看護	[講義] がん化学療法を受ける対象に必要な看護について学習する					小原	
3	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(1)	[講義] 乳がんと共に生きる対象の生活を理解し、必要な看護について学習する					軽部	
4	がん体験者・がんと共に生きる患者の生活の理解と看護(2)	[講義] がんと共に生きる患者の在宅療養の特徴と必要な看護について学習する					鮎澤	
5	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(1): 症状緩和	[講義] がんに伴う症状(痛み、リンパ浮腫、倦怠感など)が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケア看護について学習する。					皆川	
6	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(2): エンドオブライフ・ケア	[講義] 死の予期が患者・家族に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。					小松崎	
7	がんと共に生きる患者・家族に必要な緩和ケア(3): 意思決定支援まとめ	[講義] 病状の変化や患者・家族の意向に応じた療養環境の選択・調整と必要な緩和ケアについて学習する。					岩永・小原	
8	評価	レポート(テーマは後日提示)					小原	
教科書	なし			参考書等	「がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア」近藤まゆみ・嶺岸秀子編著、医歯薬出版、2006年 「系統看護学講座別巻 緩和ケア(第2版)」恒藤暁・内布敦子編、医学書院、2014年			
履修条件	なし			評価方法	1. レポート(80%) 2. 学習態度(20%)			
備考	臨地実習や卒後の看護実践の場で、がん患者を担当することが多いため、本科目を選択履修することは大変有意義である。配付資料や参考書等を活用した事前学習・事後学習ならびに授業中の積極的なディスカッションにより、がんと共に生きる患者・家族に必要な看護について学習を深めること。							

授業科目	へき地の生活と看護	科目責任者	半澤 節子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	30	受講semester	1～4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。						
	到達目標	1. へき地に住む人々の生活を理解し、人々の健康との関連を考えることができる。 2. へき地における看護活動の現状と地域の社会資源の整備状況を捉え、看護の機能・役割を考えることができる。 3. 1と2からへき地における看護の特徴を考えることができる。						
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	オリエンテーション	[講義] オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、研修施設の概要、科目の進め方、評価について説明する。					青木・半澤	
2	へき地と地域住民の生活の理解(1)	[演習] ・へき地の意味を知り、地域特性と生活との関連について情報収集およびグループワークを通して考える。					青木・半澤	
3	へき地と地域住民の生活の理解(2)	[演習] 研修施設やその地域に関する情報収集および調べ学習を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。					青木・田村・古島・横山(絢)・湯山・小原・江角・鹿野・望月・八木・佐々木・土谷・半澤	
4	へき地と地域住民の生活の理解(3)	[講義] へき地で行われている医療や看護について理解する。さまざまな看護活動と人々の生活のかかわりについて理解する。					臨床教員 青木	
5～14	臨地における研修 へき地における看護活動 保健医療福祉活動の見学・体験	[演習] 臨地研修施設において、学習課題の達成と自己の学習目標の達成を目指して研修する。 (おもな研修内容) 出張診療 巡回診療 訪問診療 訪問看護 居宅介護支援 施設見学 デイケア 訪問リハビリテーション レクリエーション 等					青木・田村・古島・横山(絢)・湯山・小原・江角・鹿野・望月・八木・佐々木・土谷・半澤	
15	へき地の看護活動の実際と住民の生活との関連	[演習] ・研修での学びを報告し、へき地での看護の特徴や機能・役割について討議する。 ・討議をもとに研修の学びを整理し、今後の自己の学習課題を考える。					青木・田村・古島・湯山・横山(絢)・小原・江角・鹿野・望月・八木・佐々木・土谷・半澤	
教科書	指定なし			参考書等	指定なし			
履修条件	なし			評価方法	1. 課題レポート(50%) 2. 研修前に提出を求める記録物(30%) 3. 研修報告会(第15回)の参加態度(20%)			
備考	受講する学生自らが、学習進度に合わせて本授業科目の目的・目標を達成するための自己目標を立てる。 へき地等の看護に興味を持っている学生の受講を望みます。1～4、15回は学内、5～14回は、臨地にて実施する。 事前に研修施設一覧により各研修施設の所在地や研修内容を把握して臨むこと。課題レポートの作成が復習となる。							

授業科目	多職種連携論		科目責任者	塚本 友栄	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	4年次 後学期	
学習目的と 到達目標	目的	保健医療および福祉における看護の役割を理解し、人々の健康生活を支えるために多職種と連携・協働する実践力の基礎を習得する。							
	到達目標	1. さまざまな組織・機関に所属する職種との連携・協働に必要な基礎知識および方法論を理解する。 2. 人々の健康生活にかかわる課題の解決を支える多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。							
回数 (1回90分)	学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員	
1	最近のわが国の保健医療福祉における多職種連携	[講義] わが国の保健医療福祉の動向と多職種連携との関連について理解する。 多職種連携の概念およびコミュニケーションと合意形成、効果的なカンファレンス、地域資源の活用、ネットワーク等の連携・協働に関する基礎知識を理解する。 第5回～第8回の演習の概要を理解する。						塚本	
2	退院支援と多職種連携	[講義] 退院支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、事例をとおして理解する。						塚本	
3	地域移行支援・地域定着支援と多職種連携	[講義] 障害者の地域移行支援・地域定着支援の方法および多職種連携・協働の必要性と課題について、単身の精神障害者の事例をとおして理解する。						半澤	
4	地域包括ケアシステムと多職種連携	[講義] 地域包括ケアシステムの実際および多職種連携・協働の必要性と課題について理解する。						春山	
5～8	多職種連携演習 (医学部6年生との合同演習)	[演習] 療養場所移行に向けた患者・家族の課題解決を目指すことを目的とした多職種および家族とのカンファレンスのロールプレイをとおして、多職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える。 演習オリエンテーション グループワーク (ロールプレイ準備) グループワーク (ロールプレイ発表) グループワーク (まとめと整理)						塚本・春山	
教科書	なし				参考書等	なし			
履修条件	なし				評価方法	1. 演習後の記録物の提出 (70%) 2. 演習前の記録物の提出 (30%)			
備考	病院から地域への移行期支援を中心に上げる。対象者にとって必要なケア提供に向けた多職種との連携・協働のあり方を深く追求する学習姿勢が求められる。保健医療福祉に関わる多職種の役割、地域包括ケアの概念、介護保険制度、障害者総合支援法等について、予め復習して臨む。ロールプレイを用いた多職種連携演習終了後に、学びを整理しレポートとして提出する。								

授業科目	総合実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講 Semester	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	看護の対象または看護実践現場の特性に応じた看護を展開するための総合的能力を養う。						
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践におけるさまざまな課題を理解したうえで、自己の関心のある看護実践課題を明確にする。 2. 特定の看護実践課題の改善・充実のための方法を考える。 3. 自己の看護実施過程を客観的事実として把握し、看護実践課題を明確にする。 						
学習内容ならびに方法								
実習期間	10日間							
実習場所	<ol style="list-style-type: none"> (1) 高度医療の場（自治医科大学附属病院、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センターなど） (2) へき地を含む地域、その他のフィールド（市町村保健福祉センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、社会復帰施設、グループホーム、事業場、診療所、助産所など） 							
担当教員	看護系全教員							
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) 原則、所定の期間に臨地で実習する。実習日程は各グループにおいて調整可能であるが、必ず前学期で実習を終える。 (2) 学生自らが実習目標及び実習方法を計画立案し、臨地の指導者等と調整しながら看護を展開し、その評価を行う。 (3) 対象者にとって必要な支援を提供するために、看護職として必要な他職種との協働（調整や連携）、チームアプローチについて検討する。 							
実習方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月初旬の全体オリエンテーションにおいて、要項を配付し概要を示す。「看護実践における課題に関するアンケート」を指定の日時までに提出する。 ・ 各学生の看護実践における課題に基づきグループ分けを行い、グループ毎に学習する。 ・ これまでの学習を踏まえながら、自己の看護実践における課題を見出す。 ・ 「看護総合セミナー」において検討する自己の看護実践における課題を深めながら、実習施設の特性、受け持つ対象者の特性などを踏まえて、実施可能な実習計画を立案して看護を展開する。 ・ 対象者にとって必要な看護を提供する上で、①組織における課題、②必要な他職種や他機関との協働、③チームアプローチについて検討する。 ・ 実習終了後には、グループ毎に学習目標に沿って討議し、実習全体の学びを統合して実習のまとめを行う。 ・ 各実習場所における実習方法の詳細については、グループ別のオリエンテーション時に説明をする。 							
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位を取得していることが必要な科目：「小児期看護実習」「周産期看護実習」「成人期健康危機看護実習」「成人期長期療養看護実習」「老年臨床看護実習」「老年在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」 			評価方法	実習評価票に基づき評価する（100%）			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文献講読セミナー」及び「研究セミナー」における学習内容をよく復習しながら、本科目の学習に臨む。また、予習として、自己の看護実践における課題に関連する資料や文献等について、日頃から広く情報収集しておく。 ・ 自己の看護実践における課題を明確にしつつ、自ら行動計画を立案し、主体的に実習を行う。 ・ 「看護総合セミナー」と連動しながら学習を展開し、本科目の学習を踏まえて「看護総合セミナー」の学習を深められるようにする。 							